

◆ 3. 12 忘れられないもう一つの災害

東日本大震災の13時間後に、長野県北部を襲った大地震はM6.7、栄村で死者三名の大きな被害を出しました。しかし、東日本大震災の甚大な被害とその報道の影で、この被害や教訓、長く苦しむ栄村の状況は時として「忘れられたもうひとつの震災」にもなっています。

信州大学地域防災減災センターでは、震災から10年を迎えた今、栄村にうかがって当時の状況やこれまでの経過について栄村役場総務課情報防災係長久保田氏からお話をうかがいました。

この長野県北部地震では、避難指示は秋山地区を除く栄村全域（804世帯2042人）に発令され一時約1700名余（村の総人口の90%）が避難をしました。また秋山地区（秋山郷）で道路寸断により約300名が一時孤立をしています。久保田氏からは信州にとって、長野県北部地震は決して忘れることなく後世につなげ、今後の防災減災に活かしていくことが大事であると話されていました。また同時に毎年この日を迎えると辛い出来事を思い出すこともあり、複雑な心境でもあると話されていました。今回、本震災を振り返り改めて災害から復興までに様々な思いを綴る必要性を感じました。今回同内容がSBCラジオ「Jのコラム」で放送されました。

東日本大震災は、2011年3月11日14時46分頃に発生し、マグニチュード9.0と観測されている。巨大な津波に襲われた地域は多大な被害を受けた。総務省消防庁「平成23年東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）（R3年3月9日）によると死者19,747人、行方不明者2,556人、負傷者6,242人と報告されている。また復興庁によればR3年2月8日現在、全国の避難者数は約4万1千人と報告されている。本地震は信州でも各地で観測をされ一部の地域で被害も報告されている。

この記憶は長く日本人の心に刻み込まれ語り継がれるでしょう。来たるべき南海トラフ地震に向けて多くの教訓も忘れてはなりません。ただ、私たち信州を襲ったもうひとつの震災も、この機会に振り返り、明日の防災減災のために今後、信州大学地域防災減災センターでは、不定期ではありますが、信州でおきました様々な震災に対して、取材をおこないご報告をさせていただく予定です。信州の防災減災の一助になれば幸いです。



左：栄村役場 総務課情報防災係 係長 久保田 一樹氏

右：信州大学 地域防災減災センター 特任助教 神田 孝文